

総務文教常任委員会資料

令和7年2月5日

教育委員会事務局
こども未来部学校教育課

目 次

令和6年度 全国学力学習状況調査等についての加東市の分析と取組についての報告

1	調査の目的	1
2	調査の対象	1
3	児童生徒に対する調査事項（令和6年度）	1
4	調査実施日	1
5	加東市の結果及び考察	2
6	継続的な検証改善サイクル	2
7	今後の取組	4
8	別紙 引継ぎシート	5
9	参考資料（ホームページ掲載）	7

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

(1) 原則として、国・公・私立学校の以下の学年の全校生徒を対象とする。

ア 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年

イ 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年（本市では第9学年）

(2) 小中学校、義務教育学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 児童生徒に対する調査事項（令和6年度）

(1) 教科に関する調査

ア 小学校調査は国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能を実生活のさまざまな場面に活用する力や、さまざまな課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等。

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の割合を一定割合で導入する。

(2) 質問調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を原則全ての児童生徒を対象に、児童生徒の活用するICT端末を用いたオンラインによる回答方式で実施する。

4 調査実施日

(1) 小学校及び中学校の教科に関する調査日は令和6年4月18日

(2) 小学校及び中学校の質問調査は令和6年4月10日～4月30日までの間で、各学校の状況に応じて実施

5 加東市の結果及び考察

(1) 小学校 国語

- ・平均正答率は全国と同程度
- ・課題 「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域に関する学習内容
- ・手立て 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する指導の充実
目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

(2) 小学校 算数

- ・平均正答率は全国と同程度
- ・課題 「変化と関係」領域に関する学習内容
- ・手立て 二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察できるようにする指導の充実

(3) 中学校 国語

- ・平均正答率は全国と同程度
- ・課題 「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域に関する学習内容
- ・手立て 話し合いの目的や話題を意識し、話し合いがどのような段階にあるのかを捉えながら話したり聞いたりできるようにする指導の充実
自分が伝えたいことを明確にし、効果を考えながら工夫して記述したり、伝えたいことが読み手に伝わっているかを確かめて推敲したるすることができるようにする指導の充実

(4) 中学校 数学

- ・平均正答率は全国と同程度
- ・課題 「関数」領域に関する学習内容
- ・手立て 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付ける活動の充実
事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

6 継続的な検証改善サイクル

(1) 4月～ 各学校で課題の改善を図る授業実施

- ・年度当初に、学年団（単学級の学校は隣接学年）で、年間の学年経営方針を立てる。
- ・授業の進め方、きまり等の授業方針を確認する。その際、前年度から引き継いだ全国学力・学習状況調査及び加東市総合学力調査の結果を分析した成果、課題、手立てを記入した引継ぎシート（別紙）を新担任が確認する。前学年の指導の手立てや児童生徒の課題等を確認して、授業で重点的に取り入れる手立てを引き継いだうえで、授業方針を立てて、1年間、指導を行う。
- ・家庭学習に1人1台タブレットのドリル学習を積極的に取り入れ、児童生徒の不得意な内容の設問を繰り返し解く学習を行ったり、得意な内容の発展的

な設問に挑戦する学習を行ったりすることで、個の能力に応じた学習を取り入れる。

(2) 4月中旬 全国学力・学習状況調査実施

- ・小学6年、中学3年対象に教科に関する調査として、国語、算数・数学の教科（隔年で理科、英語）で実施する。
- ・上記の学年対象で一人一台タブレットを活用して、質問調査を実施する。

(3) 8月上旬 第1回学力向上プロジェクト委員会

- ・7月下旬の全国学力・学習状況調査結果発表を受けて、市教委が加東市の結果及び課題等を学力向上プロジェクト委員会委員（各学校研究推進担当者）に説明する。
- ・各学校で、学力向上プロジェクト委員が市全体の課題等を報告する。各学校で自校の調査結果を分析して、2学期以降の授業で重点的に指導する内容を検討し、その手立てを共有する。各学校で共有した内容を引継ぎシートに記入する。

(4) 8月下旬 第2回学力向上プロジェクト委員会

- ・各学校の学力向上プロジェクト委員より、全国学力・学習状況調査結果を踏まえた課題、手立てを記入した引継ぎシートの内容を報告して、他校の取組を共有する。
- ・さらに、地域ごとに分かれて、各地域の小中学校担当者間で協議して、9年間を見通して、課題に対して、どのような手立てが必要か協議し、2学期以降の授業で重点的に取り組む手立てを共有する。
- ・各学校で、学力向上プロジェクト委員が会議の内容を報告する。小学6年、中学3年だけでなく、他学年も同様の課題があると考えて、各学年の授業改善に生かすよう教職員間で共有する。

(5) 9月～ 再度、各学校で課題の改善を図る授業実施

- ・全国学力・学習状況調査結果で正答率が低かった設問について復習を行い、既習学習の定着を図る。個別の学習結果に基づき、自分の得意な内容、苦手な内容を知り、これからの学習に生かすよう声掛けをして、意識づけを強化する。
- ・例えば、書く力が弱い課題に対しては、自分の考えを書くだけでなく、「国語読み物教材中の、この言葉から考えた」と根拠を示して自分の考えを書く等の取組を授業者が意図して、各学年が授業改善に取り組む。
- ・学校ごとに学校通信等で全国学力・学習状況調査結果の分析結果を保護者等へ報告する。

(6) 12月上旬 加東市総合学力調査実施

- ・小学3年～中学2年の全校生対象に国語、算数・数学、質問紙調査を行う。本調査は、同一児童生徒群で経年比較ができる調査のため、児童生徒の成長が見取りやすい。

- ・特別支援学級児童生徒も自分の力量に応じて学年を選択してチャレンジする。
- ・本調査で10月までの学習内容が定着しているか、指導者が確認する。未定着の学習内容は、年度末の総復習時に重点的に学習し直して、当該学年の学習内容を定着させる。

(7) 2月上旬 加東市総合学力調査結果の分析

- ・加東市総合学力調査の結果より正答率が低かった設問について復習を行い、既習学習の定着を図る。個別の学習結果に基づき、自分の得意な内容、苦手な内容を知り、これからの学習に生かすよう声掛けをして、意識づけを強化する。
- ・調査結果に基づいた個別の復習プリントや1人1台タブレット内のドリル学習を活用して、苦手分野の復習を個別で行う。

(8) 2月下旬 第3回学力向上プロジェクト委員会

- ・2月上旬の加東市総合学力調査の結果を踏まえた課題、手立てを記入した引継ぎシートの内容を報告して、他校の取組を共有する。
- ・さらに、地域ごとに分かれて、各地域の小中学校担当者間で協議して、9年間を見通して、課題に対して、どのような手立てが必要か協議し、年度末の総復習や次年度以降の授業で重点的に取り組む手立てを共有する。
- ・各学校で調査結果を踏まえて今年度の総復習を行う。
- ・引継ぎシートを次年度担当へ引き継ぐ。

7 今後の取組

全国学力・学習状況調査だけでは、同一児童生徒群の経年比較が毎年できなかったが、令和4年度から総合学力調査を行うことで、同一児童生徒群に具体的な手立てを取った結果を指導者へフィードバックできるようになった。

それにより、指導者が授業改善をする意識が、より高まり、普段の授業で、教師が意図して自分の考えを書かせる活動を取り入れたり、前学年の学習内容を復習してから新しい学習内容に取り組むなどの手立てを打ったりすることで、改善が見られた事例があった。これらの手立てを学力向上プロジェクト委員会で共有して、各学校で授業改善の手立てとして広めることで、さらなる向上が期待できる。

引き続き、継続的な検証サイクルに工夫を加えながら、調査結果を指導者の授業改善に生かしていく。

加東市総合学力調査(国語) 引継ぎシート①【校内保管用】

児童生徒と一緒に持ち上がって経年比較できるようにする

年度		令和()年度	令和(4)年度	令和(5)年度	令和(6)年度	
学年		3年	4年	5年	6年 【全国学力学習状況調査】	
指導者						
正答率	全体	(全国)				
	観点別	言葉・情報・言語文化	(全国)			
		話す・聞く	(全国)			
		書く	(全国)			
		読む	(全国)			
(課題) 【3学期及び次年度への手立て】	観点別	①【手立て】	(成果や課題) 【手立て】 ①	(課題)後半の問題に無回答が多い。 【手立て】文章から大切な言葉を早く抜き出すことができるように、授業の中で意識して取り組ませる。	(成果)漢字の正答率が伸びた。 【手立て】国語辞典等を活用し、言葉の意味を調べる習慣をつけた。	(課題)目的や意図、相手の求めていることに応じて、複数の情報を関係付け、必要な情報を取り出して考える力が弱い。 【手立て】相手の意図や求めていることをくみ取り、自分の考えと関連付けながら対話する場を多く設定する。
		②【手立て】	(成果や課題) 【手立て】 ②	(課題)漢字を読むことはできるが書くことに課題がある。 【手立て】文章を書くときには、既習漢字を繰り返し使って書くように指導する。	(課題)文章の内容を正しく説明したものを選択する問題の正答率が低かった。 【手立て】文章を読み取る際にサイドラインを引かせる。そして、なぜそこにサイドラインを入れたのか理由を説明し、交流する学習活動を行う。	(課題)日頃の読書活動において、心に響く言葉を見付けたり、新しい考えに目を付けたりできていない。 【手立て】朝の読書タイムや学習の隙間時間などで読書の時間を確保し、心に残った一文をICT機器を活用するなどして簡単に交流し合う。
		③【手立て】	(成果や課題) 【手立て】 ③	(課題)設問5-2から、複数の情報を整理して正しく理解することに課題がある。 【手立て】文章を読み取る際、サイドラインを引かせたりメモさせたりして、情報を整理しながら読むことを大切にする。	(成果)会話に当てはまる正しい慣用句を選ぶ問題の正答率が高かった。 【手立て】日常生活の中で慣用句などを意識して使うようにする。様々な言葉を教室に掲示する。	(成果)心に残ったところとその理由を条件に合わせて書くことができた。また、無回答率も低かった。 【手立て】普段の授業で、叙述を基に理由を明らかにして自分の考えを書かせている。

加東市総合学力調査(算数・数学) 引継ぎシート①【校内保管用】

児童生徒と一緒に持ち上がって経年比較できるようにする

年度		令和()年度	令和(4)年度	令和(5)年度	令和(6)年度	
学年		3年	4年	5年	6年 【全国学力学習状況調査】	
担当者(授業者)						
正答率	全体	(全国)				
	観点別 【】内は 中学校 項目の 数値な い時は 空欄	数と計算【数と式】	(全国)			
		図形【図形】	(全国)			
		測定	(全国)			
		変化と関係【関数】	(全国)			
		データの活用 【データの活用】	(全国)			
(課題) 【3学期 及び次 年度へ の手立 て】	観点別	①	(成果や課題) 【手立て】 (課題) 図形の基礎(算数的な言葉の知識理解)が定着していない。 【手立て】家庭学習やプリント学習などを通して、既習内容を繰り返し練習させる。	(成果) 長方形の横の長さを求めるなど、図形に関わる問題の正答率が高かった。 【手立て】家庭学習やプリント学習などを通して、既習内容を繰り返し練習させる。図形を描く学習活動を積極的に取り入れる。	(成果) 知識・技能の項目の正答率が高かった。 【手立て】家庭学習やプリント学習などを通して、既習内容を繰り返し練習したり、間違いはその日のうちに全ての直しをさせたりして、基礎学力の定着を図ってきた。	
		②	(成果や課題) 【手立て】 (課題) 文章題を正しく読み取ること課題がある。 【手立て】文章問題に取り組ませるときには、立式につながる大事な言葉にラインを引かせたり、図に表したりさせる。	(成果) 昨年度と比べると計算力が伸びた。 【手立て】毎日の反復練習や、宿題の直しの徹底の成果が出た。	(課題) 言葉や式や用いて記述することの正答率が低い。 【手立て】話型や型を示して、まずは書くことに慣れるようにする。	
		③	(成果や課題) 【手立て】 (課題) 3位数÷1位数(あまりのある計算)を正しく処理することに課題がある。 【手立て】習った時だけでなく、時間をおいて繰り返し計算練習させる。	(課題) ○と□の関係を式に表すなどの問題の正答率が低かった。 【手立て】時間をおいて繰り返し計算練習をする。	(成果) 2年前に比べて図形の項目の正答率が大きく伸びた。 【手立て】単元に入る前に前学年の学習内容をプリントで復習してから取り組むようにした。	

加東市の子どもに **豊かな学び** と **確かな学力** を育むために —令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果から—

令和6年4月18日に、全国学力・学習状況調査が、小学校6年生、中学校3年生を対象に実施されました。加東市教育委員会では、子どもたちに「豊かな学び」と「確かな学力」を育むために、調査の結果を分析し、今後の教育指導の充実や学習状況の改善を図ります。

教科に関する調査結果・児童生徒質問紙調査結果の概要（全国平均との比較）

教科	国語		算数	数学
校種	小・中学校・義務教育学校		小学校 義務教育学校	中学校 義務教育学校
学習指導要領の領域	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	数と計算	数と式
		情報の扱い方に関する事項	図形	図形
		我が国の言語文化に関する事項	測定	関数
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	変化と関係	
		書くこと 読むこと	データの活用	データの活用

小学校  ※チャート図の----- は、全国平均を表しています。	国語	平均正答率は全国と同程度でした。「話すこと・聞くこと」領域に関する学習内容に課題が見られました。
	算数	平均正答率は全国と同程度でした。「変化と関係」領域に関する学習内容に課題が見られました。
中学校  ※チャート図の----- は、全国平均を表しています。	国語	平均正答率は全国と同程度でした。「話すこと・聞くこと」に関する学習内容に課題が見られました。
	数学	平均正答率は全国と同程度でした。「関数」領域に関する学習内容に課題が見られました。

※ 全国の平均正答率との差が 5 ポイント未満の場合は「全国と同程度」、5 ポイント以上の場合は「全国よりも高い・低い」と表現しています。

※ 本調査の結果は、学力の特定の一部分、学校における教育活動の一側面です。

小学校 国語

定着傾向がみられた問題例

- ◆【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。

【2- (2) 85.7%】

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができます。

課題がみられた問題例

- ◆【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。 (きょうぎ)

【2三ア 42.9%】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題が見られました。

小学校 算数

定着傾向がみられた問題例

- ◆はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。

【1 (2) 86.7%】

- 数量の関係を、□を用いた式に表すことができます。

課題がみられた問題例

- ◆直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。

【3 (3) 25.6%】

- 球の直径の長さや立方体の一片の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題が見られました。

中学校 国語

定着傾向がみられた問題例

◆本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する
【2ニ 77.0%】

- 具体と抽象など情報と情報との関係について正しく理解できています。

課題がみられた問題例

◆本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する。
【2一 34.4%】

- 文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題が見られました。

中学校 数学

定着傾向がみられた問題例

◆正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める。
【6(1) 87.3%】

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができています。

課題がみられた問題例

◆18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。
【8(2) 11.7%】

- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られました。

Pick up! 過去3年の経年比較から

◆朝食を毎日食べていますか。

	R4	R5	R6
小6	96.4%	95.7%	97.3%
中3	94.0%	94.0%	95.9%

朝食を食べることは、心身ともに健やかな成長を促すために、大切なことです。エネルギーが足りないと、授業中の集中力が続かなくなったり、イライラしやすくなったりしますので、楽しい学校生活を送るために、毎朝、朝食を食べましょう。

◆人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

	R4	R5	R6
小6	96.4%	95.7%	97.6%
中3	96.9%	98.7%	97.9%

人の役に立ちたいと肯定的に回答する児童生徒は多いです。自己有用感や規範意識の高まりが、向上心につながります。自分も相手も大切に考えて、より良い社会を目指す一員になるよう、日々の生活に取り組みましょう。

◆いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

	R4	R5	R6
小6	99.3%	96.5%	99.0%
中3	97.4%	98.3%	96.9%

いじめは、どの学校でも起こり得ます。児童生徒も教員もいじめを許さない気持ちで、学校生活を過ごしましょう。困った時は、友達や大人に相談して、一人で抱え込まないようにしましょう。

児童生徒質問紙調査結果概要（4段階評価の上位2段階）

分類	質問項目	学校種	加東市 (%)	全国 (%)
学習習慣	普段（月～金）、どれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾・家庭教師含む）【1時間以上】	小6	51.7	54.6
		中3	64.7	64.3
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	小6	80.1	80.7
		中3	80.4	78.6
	学校に行くのは楽しいと思いますか	小6	85.6	84.8
		中3	85.9	83.8
生活習慣	朝食を毎日食べていますか	小6	97.3	93.7
		中3	95.9	91.2
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小6	95.9	91.6
		中3	94.2	92.5
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小6	85.9	82.9
		中3	82.1	80.7
規範意識	人が困っているときは、進んで助けていますか	小6	93.8	92.7
		中3	87.4	90.1
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小6	99.0	96.7
		中3	96.9	95.7
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小6	97.6	95.9
		中3	97.9	95.2
	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか【持っていない含む】	小6	86.3	84.8
		中3	78.5	75.4
自己有用感	自分には、よいところがあると思いますか	小6	83.9	84.1
		中3	87.4	83.3
	将来の夢や目標を持っていますか	小6	81.8	82.4
		中3	69.2	66.3
	先生は、あなたの良い所を認めてくれていると思いますか	小6	84.9	89.9
		中3	88.4	90.4
地域・社会への関心や支援	新聞を読んでいますか【週に1回以上】	小6	11.0	11.6
		中3	12.0	7.3
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	小6	77.1	67.1
		中3	75.4	67.5
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	小6	83.6	83.5
		中3	80.8	76.1
	友達関係に満足していますか	小6	93.5	91.1
		中3	94.2	90.1

分類	質問項目	学校種	加東市 (%)	全国 (%)
5年生(中学1、2年生)までの学習で、タブレット等の活用	分からないことがあった時に、すぐ調べることができると思いますか	小6	93.5	92.1
		中3	95.9	93.9
	楽しみながら学習を進めることができますか	小6	84.9	86.0
		中3	86.0	82.4
	自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか	小6	79.4	79.2
		中3	81.1	77.7
	友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思いますか	小6	84.5	86.1
		中3	89.0	86.2
	友達と協力しながら学習を進めることができますか	小6	89.4	87.1
		中3	86.7	85.2
前学年までの授業を振り返って	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	小6	67.8	67.6
		中3	57.9	64.8
	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	小6	78.1	79.6
		中3	73.7	75.4
学習について	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	小6	82.5	80.8
		中3	77.0	77.9
	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	小6	85.9	83.7
		中3	81.1	79.0
	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	小6	89.7	88.2
		中3	91.4	91.7
	国語の勉強は好きですか	小6	67.5	62.0
		中3	66.1	64.3
	国語の勉強は大切だと思いますか	小6	93.8	94.5
		中3	93.1	93.9
	国語の授業の内容はよく分かりますか	小6	87.4	86.3
		中3	84.3	82.7
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小6	91.8	93.2
		中3	93.2	90.6
	算数(数学)の勉強は好きですか	小6	61.0	61.0
		中3	56.5	57.2
	算数の勉強は大切だと思いますか	小6	95.3	94.6
		中3	88.7	87.2
	算数の授業の内容はよく分かりますか	小6	83.6	82.1
		中3	78.8	75.7
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小6	95.5	94.1	
	中3	78.5	78.5	

学力向上・学習状況改善に向けての取組

学力・学習状況調査結果の活用

- 各学校、学力向上プロジェクト委員会による全国学力・学習状況調査（小6・中3）、総合学力調査（小3～中2）結果の分析、活用を通じた授業改善

家庭学習、自主学習の充実

- 「家庭学習の手引き」の作成、活用
- 自主学習室「加東スタディライフ」の実施（小5～6、中3）
- 放課後学習（ひょうごがんばり学びタイム）
- 漢検・算検チャレンジ

教員の指導力向上

- 各学校における授業研究、校内研修
- 各種研修会への積極的な参加



校内授業研究

読書習慣の確立

- 学校図書館（図書室）、加東市立図書館の活用
- 朝の読書タイム、読書週間の実施



ボランティアによる読み聞かせ

子どもたちに
豊かな学びと
確かな学力を
育みます

英語教育の充実

- 担任・英語担当教員とALTとのチームティーチング
- 加東市独自の英語検定「かとう英語ライセンス検定」の実施、「レッスンブック」「はば単」（兵庫県教育委員会作成の英単語集）の活用
- 英検チャレンジ【実用英語技能検定（英検）】
（対象：市立中学校・義務教育学校後期課程の生徒、1人年1回検定料の助成）
- 「わくわく英語村」の実施（市立中学校・義務教育学校後期課程）
- GTEC Juniorの実施（市立小学校・義務教育学校6年生）



ALTと外国語の授業

授業改善の取組

- 電子黒板やタブレットパソコン等、ICT機器の効果的な活用
- 授業における「見通し・振り返り」活動の充実
- ペア、グループ等による協働学習の推進
- 言語活動の充実
（話し合い活動や書くことの習慣化を意識した授業づくり）
- 基礎・基本の定着をめざした繰り返し学習
（一人1台パソコンの活用）
- 小学校から中学校、中学校から小学校への出前授業



タブレットパソコン等の活用



協働学習の推進

上記は、学力向上・学習状況改善に向けた取組の一部です。様々な取組を通して加東市の子どもに「豊かな学び」と「確かな学力」を育てていきます。

ご家庭では、児童生徒の望ましい生活習慣や学習習慣の定着について、ご協力をよろしくお願い申し上げます。